



①ナガコガネグモを仕留めたモンクモバチ
大型のクモを専門に狙うハンター・モンクモバチがナガコガネグモを仕留めた。クモは麻酔を施され、生きているが動けない。生きたままハチの子のエサとなる。

葛飾区水元公園 8月下旬 12時41分



②獲物を置き巣穴を掘るモンクモバチ
巣穴を掘りながら、何度も獲物の場所に戻って獲物の無事を確認し、少しずつ巣穴の近くに運ぶ。写真は最終的に巣穴の近くに持ってきた様子(矢印)。狩りをした場所から数メートル運んできた。



③脚を咥え獲物を引きずる
獲物の脚の付け根を咥えて後退しながら巣穴に獲物を運ぶ。狩りバチは種類によって獲物を咥える位置や運搬の仕方が異なる。



④ナガコガネグモを巣穴に引きずり込む瞬間

巣穴から顔をのぞかせているモンクモバチが獲物の脚を咥え、土中へ引きずり込む。巣穴を掘り進める作業は1時間以上かかっていたが、獲物を運び込むのはほんの一瞬のできごとで、すぐに見えなくなってしまった。

14時00分

西表島で見たキオビクモバチの狩りが強烈に印象に残っていて (vol.116参照)、最近**は狩りバチにすっかり夢中になっている**。ファーブル昆虫記の中の「憧れ」だった狩りバチが、ここ数年で少しずつ自分でも観察できるようになってきて (vol.29, 58)、もっと色々見てみたい!と欲張り始めてしまったのだ。

最近お気に入りの水元公園 (葛飾区) で、狩りバチいないかなあと散歩していると、バーダー (鳥観察人) のおじさんに話しかけられた。「兄ちゃん、こっちにクモを運んでるハチがいるよ」それ!まさにそれを探していたんですよ!こっちからは何も言っていないのに、こんな都合の良い話があるのか。おじさんに心から感謝しつつ、地べたに座り込んで観察を始めた。すると、そんなに珍しいの?じゃあ僕も撮ろうかなあとばかりに、おじさんたちがぼくの周りにわらわらと集まってしまった。さっきまでハチなど見向きもせずカメラの性能についてくっちゃべっていたのに…。そんなこんなで、バズーカのような鳥撮影用レンズを携えたおじさんズに囲まれてしまった。鳥用の望遠レンズは近くにピントが合わないの、離れて撮る必要がある。あぐらをかいてハチのすぐ横に座るぼくの後方に、少し距離を置いておじさんたちが取り囲んでいるのである。はたから見れば、**地べたに座って地面を凝視する変人**を撮影しているように見える。やめてくれ…。正直、邪魔だなあと感じながらも、狩りバチのことを教えてもらった身なので、我慢する。でもさすがに、おじさんの一人がハチが仕留めた獲物のクモを棒でつつき始めた時は、勘弁してくれ〜と半泣きになった。

狩りバチの観察で驚いたのは、このモンクモバチが**巣穴を掘って獲物を運び込むまでに1.5時間以上もかかったことだ**。母バチがこの作業の末に産む卵は1つだけ。**1匹の子のために物凄いコストをかけている** (途中、人間の邪魔が入っているのでもいつもこんなに時間をかけているのかは分からない)。まあそのおかげで、飽きたおじさんズは途中から離脱してまた最新機種のカメラを買うかどうか議論し始めたので、じっくり観察することができた。



⑤口を使って穴を埋め始める

産卵を終えたモンクモバチが再び出てきて、せっせと巣穴の入口を閉じ始めた。口を使って器用に土を穴に塗り付けていく。

14時03分



⑥からだを震わせて土を固める

ハチが巣穴を埋める作業も非常に興味深かった。ある程度の土をかぶせた後、ハチが突如ふなっしーのように震えだしたのだ。おそらく土を固めるためだと思われる。少し土をかぶせては震える、を何度も繰り返していた。わざとシャッター速度を遅くして撮影。